

きつねの田植え 奈良県

むかし、樺原に、惣五郎さんいうお百姓さんがおつてん。惣五郎さんは、三段歩もあ
る広い広い田んぼ持つてはつてんて。

ある年の田植えどきのことや。惣五郎さん、広い田んぼの植えつけみな終えて、夕方、
家に帰つて行かはつてん。ほしたら、とちゅうで、子ぎつねが野つぼにはまつて死んで
るのん見つけたんや。惣五郎さんは、「かわいそうに」いうて、子ぎつねを引きあげて、
そばの畠のすみに埋めてやつてんて。

その晩、惣五郎さんが寝てたら、おもての戸をドンドンたたく者がおるねん。
(こんな夜なかに何事やねん)

惣五郎さんが起きあがると、家の外から五、六人の声で、
'お田引いた。惣五郎。三段歩のお田みな引いた' いうねん。

'なんのこつちや' いうて戸開けてみたけど、だれもおらへんねん。

あくる朝になつて、惣五郎さんが田んぼに行つてみたら、きのうせつかく植えた三段
歩の田んぼの苗が、一本残らずひき抜かれててんて。惣五郎さん、びっくりして、
'わしの田んぼの苗がみんな抜かれてしもうたんや。だれがやつたか知らんか' いうて、
村の人聞いてまわつてん。けど、みんな「知らん」「知らん」というねんて。

惣五郎さんは、ふときのうのこと思い出して、子ぎつね埋めてやつた畠のすみに行つ
てみたんや。そしたら、土が掘りかえされててな、子ぎつねの体がなくなつててんて。
(ははあ、わしが子ぎつねを殺したと、親ぎつねが思い違いしとんねんな。ほんで、仕
返しに、田んぼの苗を引いてしまいよつたんや)

惣五郎さん、そう考えて、そのへんの竹やぶやら、林の中やら川の土手やら、きつね
がすんでいそなとこを、ぜんぶまわつて、

'おおい、思い違ひすんな。子ぎつねが野つぼでおぼれ死んでたんを、わしが葬つて
やつたんやぞお' て、どなり歩いたんやて。

その晩、惣五郎さんが寝てたら、

'よういせえ、こうらせえ' いうかけ声が聞こえてきて、惣五郎さんの家の前でぴたつ
ととまつてん。それから、おもての戸をトントンてたたく音がして、

'お田引いてすまなんだ。惣五郎さん。三段歩のお田また植えた' いうて、帰つて行つ

てんて。

朝になつて惣五郎さんがおもての戸をあけてみたら、大きい鏡餅がひと重ね置いたあつてんて。ほんで田んぼに行つてみたら、三段歩の田んぼの苗がぜんぶもとどおりに植えてあつたいうことや。

おしまい

出典 『子どもと家庭のための奈良の民話二』村上郁再話／京阪奈教育出版

《共通語によるテキスト》

きつねの田植え 奈良県

むかし、樅原に、惣五郎さんというお百姓さんがいました。惣五郎さんは、三段歩もある広い田んぼを持っていました。

ある夕方、惣五郎さんは、田植えを終えて、家に帰つて行きました。帰るとちゅう、子ぎつねが一匹、野つぼにはまつて死んでいるのを見つけました。惣五郎さんは、「かわいそうに」と、子ぎつねを引きあげて、そばの畠のすみに埋めてやりました。

その晩、惣五郎さんが寝ていると、おもての戸をだれかがドンドンたたきました。
(こんな夜なかに何事だ)

惣五郎さんが起きあがると、家の外から五、六人の声で、

「お田引いた。惣五郎。三段歩のお田みな引いた」というのが聞こえました。

「なんのことだ」といいながら戸を開けてみましたが、外にはだれもいません。

あくる朝、惣五郎さんが田んぼに行くと、きのうせつかく植えた三段歩の田んぼの苗が、一本残らずひき抜かれていきました。惣五郎さんは、おどろいて、村の人たちに、

「わしの田んぼの苗がみんな抜かれてしまったんだ。だれがやったか知らないか」と聞いてまわりました。けれども、だれも知りません。

惣五郎さんは、ふと、きのうのこと思い出して、子ぎつねを埋めた畑のすみに行つてみました。すると、土が掘りかえされていて、子ぎつねの体がなくなっていました。（ははあ、わしが子ぎつねを殺したと、親ぎつねが思い違いをしているんだな。その仕返しに、田んぼの苗を引いてしまったにちがいない）

惣五郎さんは、そう考えて、あたりの竹やぶや、林や、川の土手など、きつねがすんでいそうな所を、ぜんぶまわって、

「おおい、思い違いをするな。子ぎつねが野つぼでおぼれて死んでいたのを、わしが葬つてやつたんだぞ」とどなり歩きました。

その晩、惣五郎さんが寝ていると、

「よういせえ、こうらせえ」と、かけ声が聞こえてきて、惣五郎さんの家の前でぴたり止まりました。それから、おもての戸をトントンとたたく音がして、

「お田引いてすまなかつた。惣五郎さん。三段歩のお田また植えた」といつて、帰つて行きました。

朝になつて、惣五郎さんがおもての戸を開けると、大きな鏡餅がひと重ね置いてありました。そして、田んぼに行ってみると、三段歩の田んぼの苗がぜんぶもどおりに植えてあつたということです。

おしまい

原話..『大和の伝説』(増補版)』高田十郎編／大和史蹟研究所

再話..村上郁(○)